スケトウダラ（根室海峡）①

スケトウダラは北太平洋に広く生息し、本評価群はこのうち根室海峡で漁獲される群である。本資源の漁獲量等は漁期年（4月～翌年3月）の数値を示す。

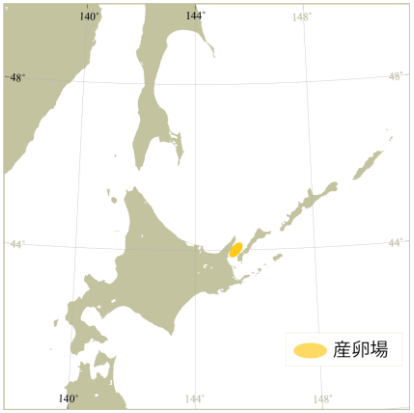

図1　分布図

本資源は北方四島水域やロシア水域などに跨って分布する。日本漁船の操業水域には主に産卵期に来遊すると考えられる「跨り資源」である。

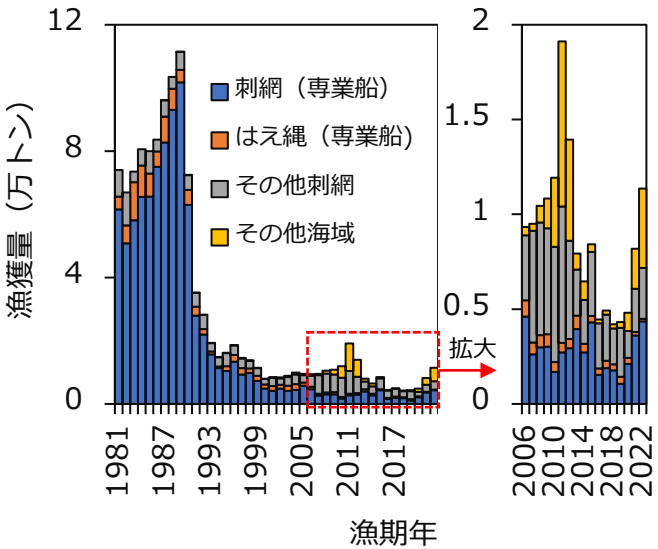

図2　漁獲量の推移

漁獲量は1989年漁期の11.1万トンを最高に急減して2000年漁期には1万トンを下回った。2010年漁期前後に再び1万トンを超えて漁獲されたものの、その後減少して2016年漁期以降は0.5万トン以下で推移していたが2022年漁期は1.1万トンに増加した。

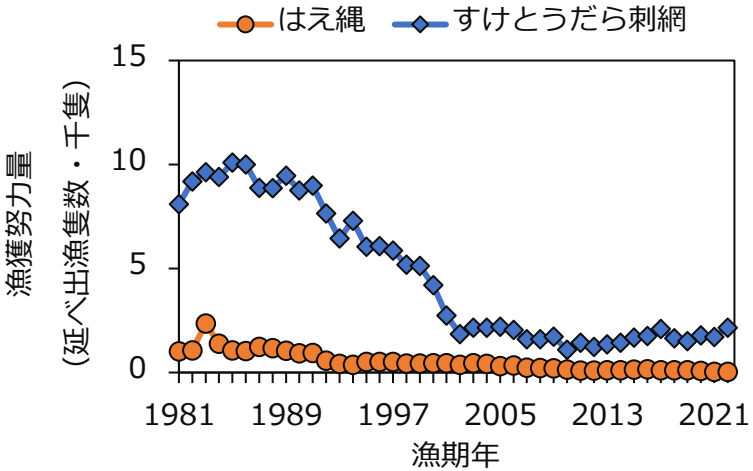

図3　漁獲努力量の推移

漁獲努力量は、すけとうだら刺網漁業では2002年漁期まで大きく減少してその後はほぼ横ばい、はえ縄漁業も1983年漁期を最高にその後減少した。隣接水域におけるロシア漁船の漁獲量・漁獲努力量は不明である。

スケトウダラ（根室海峡）②

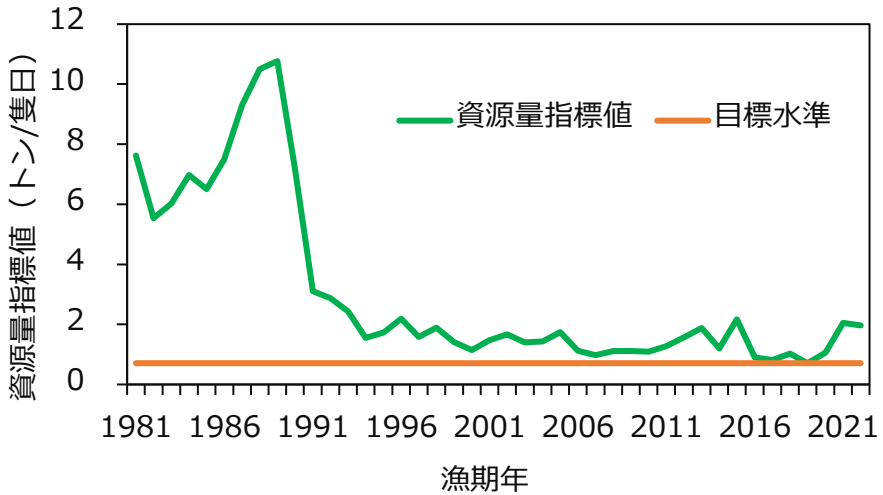

図4　資源量指標値と目標となる値

羅臼地区のすけとうだら専業の固定式刺網漁業による延べ出漁隻数あたり漁獲量を資源量指標値とした。2002年漁期以降はブロック操業*のデータを除いた。

本資源の漁獲シナリオでは、資源量指標値の1981～2019年漁期の最低値（0.71）を、維持または回復させるべき目標と定めている。2022年漁期の資源量指標値（1.97）はこの目標水準を上回った。

本資源の漁獲シナリオについて

本資源は隣接する水域に跨って分布し、日本漁船の操業水域における情報のみでは資源全体の動向を捉えることが出来ないことから、最大持続生産量に関係する目標管理基準値や限界管理基準値を定めることが出来ない。

本資源の漁獲シナリオでは、我が国の漁船による漁獲の状況等を踏まえて、我が国漁船の操業水域に分布する資源の最適利用が図られるよう漁獲を管理するとされている。

*ブロック操業とは漁獲圧軽減による資源保護と操業コスト削減を目的として、複数の経営体がグループを作り、グループ内の1隻が交互に休業する操業形式